シナハマダラカ各型幼蟲の剛毛の分岐数 (各型とも 30 例)

剛毛の名称		基 本 型 $M_1 \pm m_1$	レステリー型 $M_2 \pm m_2$	$M_1 - M_2$	$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}}$
外 額 嘴 毛		33.3 ± 0.72	24.0 ± 0.52	9.3	10.4
前 頭 毛	内	15.3 ± 0.29	12.9 ± 0.29	2.4	5.9
	中	15.8 ± 0.34	13.0 ± 0.27	2.8	6.5
	外	18.3 ± 0.45	14.6 ± 0.32	3.7	6.6
額 頂 毛	内	8.2 ± 0.21	7.5 ± 0.22	0.7	2.3
	外	6.3 ± 0.14	7.3 ± 0.18	-1.0	-4.3
肩 毛	内	1.9 ± 0.10	1.8 ± 0.12	0.1	0.8
	中	9.6 ± 0.22	8.7 ± 0.24	0.9	2.6
掌 状 毛	Ⅲ	18.4 ± 0.33	18.4 ± 0.27	0	0
	Ⅶ	18.1 ± 0.20	16.9 ± 0.31	1.2	3.2
		$\frac{Mr}{\sigma} = 10.3$			計 34.0

[九州大學醫學部 澤田内科]

東京の鼠の種類並びに 2・3 外部 寄生蟲について

佐々學・加納六郎・林 滋 生・三浦昭子・木村マリ

Sasa, M., Kano, R., Hayashi, S., Miura, A., et Kimura, M. :

Rats and rat-exoparasites collected in Tokyo

昨年暮より今年にかけての冬期約3ヶ月間、東京都の御好意により麻布保健所管轄地区内で捕えられた住家性鼠約600頭について、諸種の調査を行う機会を得た。その中の population, 生物學的計測及び外部寄生蟲に關して報告をする。尙外部寄生蟲の中には本年3月に八文島の鼠について調査し得た所を含む。得られた鼠は大部分クマネズミとドブネズミであり、更に若干のクロクマネズミ、クロドブネズミ、並びに各1頭宛のホンドハツカネズミ *Mus musculus molossinus* とオウシュハツカネズミ *M. m. musculus* とであつた。計測の結果は、林野廳の今泉吉典氏の説の如く、クマネズミ、クロクマネズミは夫々眞の *R. r. alexandrinus* 及び *R. r. rattus* よりは尾長比、足長が小さく *R. r. erythronotus* (Temminck 1847?) に略一致し、又ドブネズミ、クロドブネズミは夫々眞の *R. n. norvegicus* 及び *R. n. hibernicus* よりは小形で足長が小さく、*R. n. otomoi* Yamada 1930 に略一致する成績を得たので、邦産住家性鼠の亜種名が確定を見る迄は一應 *R. r.*, *R. n.* 等の species に止め、その黒變型を區別しておく程度にしたいと思う。以下 species で2大別して兩種を比較する。捕獲数は *R. r.* の方が著しく多く62%で *R. n.* の約2倍に達し、又性別は雌の方が稍多く全體の54%を占めた。次に計測値を比較すれば、體重、頭胴長とも *R. n.* の方が大きく、體重平均 *R. r.* 88.6g に對し *R. n.* 152.8g 又頭胴長平均 *R. r.* 15.3cm に對し *R. n.*

17.7cmであつたが、その分布はどちらも大きく重なり合つていた。尾長比は平均 $R. r.$ 1.09 で1より大であるのに對し、 $R. n.$ は0.87と1よりも小さく、分布も僅か重なるに過ぎない。耳長比も同様 $R. r.$ の方が大きく平均値は $R. r.$ 0.15, $R. n.$ 0.11 で分布の重なりもやはり少ない。尙耳長比と體重の相關を調べた所、兩種ともに著明な逆相關を示したので、上述の耳長比分布に於ける兩者の重なりは、 $R. r.$ の成長したものと $R. n.$ の幼若のもの間に起る事を知つた。従つて體重を考慮すれば、兩種の耳長比分布はもつと鋭く分離するものである事を認めた。次に外部寄生蟲に關しては、種名と得られた標本数をリストにして掲げる。この中※印は日本未記録のものであつたが、特にダニの *Ichoronyssus* sp., シラミの *Hoplopleura oenomydis* 等は、かなり多数見出されたので、住家性鼠に普通に見られるものとして、今後注目を要するものであらう。

種 名		東 京	八丈島
ダ	<i>Laelaps echidninus</i>	51	4
	<i>Laelaps nuttalli</i>	10	0
	<i>Eulaelaps stabularis</i>	0	11
	※ <i>Haemolaelaps glasgowi</i>	9	0
ミ	<i>Liponyssus bacoti</i>	24	0
	※ <i>Ichoronyssus</i> sp.	99	0
ノ	<i>Nosopsyllus fasciatus</i>	2	35
ミ	<i>Monopsyllus anissus</i>	30	0
シ	<i>Polyplax spinulosa</i>	$R. r.$, $R. n.$	
ラ	※ <i>Hoplopleura oenomydis</i>	$R. r.$, $R. n.$	
ミ	※ <i>Hoplopleura acanthopus</i>	(Microtus)	

[傳研第6研究部衛生動物研究室]

シナハマダラカ各型の蛹及び雄蟲 外部生殖器に就て

宮川三男・甲斐田哲二

Miyagawa, M., et Kaida, T.: Nymph and male genitalia
of various types of *Anopheles hyrcanus sinensis*

吾々はシナハマダラカ各型の雌成蟲産下卵を孵化せしめ、同一條件にて飼育して得た蛹及び雄蟲外部生殖器の比較觀察を試み次の結論を得た。

蛹に於ては 1) レステリー型は基本型に比し黒褐色乃至灰褐色色素斑に富み、特にレステリー型では頭胸部背板に左右呼吸角基部を結ぶ略々鉤状の黒褐色色素斑が存し、後胸板には黒褐色の不規則な形の色素斑が存し、各腹節剛毛の一部には剛毛基部に環状の黒褐色乃至灰褐色の着色を認め、雄蛹の腹葉の下半部に灰褐色着色を認める。基本型では上記各部に色素斑を認めないか、或は認めても淡い灰色乃至黄色の着色にすぎない。 2) 蛹の頭胸部剛毛及び各腹節背面剛毛の分岐数はレステリー型の方が多い。 3) 游泳片の形はレステリー型に於て其の後縁が鋭く突出したものが多く基本型では後縁は丸く凹のあるものが多い。

雄蟲外部生殖器に於ては 1) 第9節背板に於て顯著な差があり、背板の突起を含めた高さは、レステリー型は基本型に比し著しく短く、兩突起基部の中央部の間隔を標準とすれば、